

## 2022 年度 施設関係者評価委員会 議事録

日時：2023（令和 5）年 2 月 13 日（月）17:00～18:00

評価委員出席者：赤澤淳子様（福山大学人間文化学部教授）

平木滋子様（瀬戸内不動産役員・国際ソロプチミスト福山会長）

青野篤子（社会福祉法人つくし会嘱託アドバイザー）

園側出席者：甲斐弘美（社会福祉法人つくし会理事長・こどもえんつくし園長）

こどもえんつくし副園長

場所：こどもえんつくし フォレスタ ダイニング・ホール

資料：こどもえんつくし教育・保育課程，評価シート（事前配布），こどもえんつくしガイドブック（当日配布）

<議題>

(1) 委員長（議長）の選出

赤澤委員が選出され，議事に入った。議事録は青野が作成することになった。議事に先立ち甲斐園長より挨拶があった。

(2) 議事

評価シートの項目に従って意見効果・質疑応答を行った。

(ア)教育・保育全般について

(園側説明)

- ・HP の改訂作業に伴い，改めて理念や目標を確認することができた。
- ・若手とベテランとの意識の差を埋めるために，伝え続ける努力が必要である。

(委員より)

- ・HP 改訂版では園の特徴がわかりやすくなっている。
- ・教育・保育の目標が管理職だけでなく職員に共有されていることが重要である。
- ・理念を実践に移すことが重要である。

(イ)教職員について

(園側説明)

- ・不適切保育が社会問題になっているが，本園ではそのような事例はない。
- ・副園長や嘱託アドバイザーなど異なる立場から助言をする体制になっているが。
- ・派遣やパートも多く，職員間の意識のずれを埋めていく必要がある。

(委員より)

- ・本園には不適切保育のような事例はないということであるが，不適切保育の背景には保育士のストレスがあり，職場環境の問題がある。そのため，保育士のストレスを溜めないような職場環境について考える必要がある。
- ・経営者の立場から，上司の態度（伝え方・聞き方）が重要と感じている。
- ・職員の，だれかに伝えたい気持ちを拾い出すことも必要。
- ・保育士のストレス軽減のための対策，相談できる体制，若い人が発信しやすい環境が必要。

(ウ)子どもについて

(園側説明)

- ・コロナ禍の子どもへの影響を危惧している。マスクで表情をくみ取る力が弱くなっているのではないか、など。子どもには生きる力やたくましさがあり、大人が学ぶことも多い。5類となり個別判断に任せられるが、家庭の希望などにも配慮する必要がある。
- ・外国からの一時帰国者の入園希望もあり、子どもや家庭の層が多様化しているため、対応が考える必要がある。

(委員より)

- ・外国からの一時帰国者については、幼児が多様性について学べる好機と捉えることができるのではないか。

(エ)園内・園をとりまく環境について

(園側説明)

- ・増改築など環境整備に努め、家庭では経験できないダイナミックな活動を期待するが、それには使う人(職員)の意識が大事である。机やいすをおもちゃにするなどの、子どもの発想を大事にしたい。

(委員より)

- ・施設を地域に開放するようなことを考えてはどうか。

(オ)地域・保護者との連携について

(園側説明)

- ・福山大学の連携事業(子ども遊び広場)は継続したい。

(委員より)

- ・クレイマーのように難しい保護者はいないか。

(カ)その他

(園側説明)

- ・園児の減少が最大の課題。その最たる原因は職員の確保が難しいことにある。
- ・新たな事業による社会貢献も考える時期にきている。

(委員より)

- ・未来の子ども像を描いて、そのための保育に力を入れる必要があるのではないか。

例えば、IT技術の基礎を培うなど

- ・園長・理事長が広告塔になり、園の良さや特長を打ち出し、他の園との差別化を図ることも考えてよいのではないか。

(3) 評価シートの記入・提出

各委員から評価シートを提出していただき、会議を終了した。